

令和3年第7回松山市教育委員会定例会

(横山事務局次長)

ご起立をお願いします。

一同礼。

(一同)

お願いします。

(横山事務局次長)

ご着席ください。

(教育長)

ただいまから、令和3年第7回松山市教育委員会定例会を開会いたします。

本日の議事日程は、お手元に配布の日程表のとおりであります。

まず、本日の会議録署名人に白石委員を指名いたします。

ここで、お知らせいたします。

本市の教育委員会では、松山市教育委員会会議規則に基づき、傍聴人に限り入室を許可できることとしています。

本日の教育委員会定例会には、1人の傍聴を許可しておりますので、ご報告いたします。

あわせて、カメラの撮影等も許可しておりますので、申し上げます。

傍聴人に申し上げます。

教育委員会の傍聴にあたっては、議案・報告等案件に対して賛成あるいは反対の意見表示をしたり、会議の妨害となる行為をすることは禁じられております。

規則等に基づき非公開の議決があった時は、一時的に退席していただきます。

また、規則等に違反する場合は、退席を命ずることがありますので、申し上げます。

それでは議事に入ります。

日程第1 議案第32号「社会教育委員の委嘱について」を議題といたします。

池田地域学習振興課長から説明を求めます。

(池田課長)

地域学習振興課です。

よろしくお願いいたします。

お手元の資料1ページから3ページをお願いい

たします。

議案第32号「社会教育委員の委嘱について」ご説明申し上げます。

社会教育に関する諸計画の立案などを行う社会教育委員は、社会教育法第15条第2項及び松山市社会教育委員条例第2条の規定により、教育委員会が委嘱しています。

来たる令和3年11月14日で2年の任期が満了するため、その後任者を委嘱するものです。

今回委嘱する社会教育委員総数18名のうち、留任は15名、新任は3名になります。

任期は、令和3年11月15日から令和5年11月14日までとなっています。

以上で説明を終わります。

ご審議のほど、よろしく願いいたします。

(教育長)

以上で説明は終わりました。

この件に関し、何かご意見等はございませんでしょうか。

(一同)

なし

(教育長)

意見等もないようでございますので、採決をいたします。

議案第32号「社会教育委員の委嘱について」を原案通り決定することについてご異議ございませんか。

(一同)

異議なし

(教育長)

ご異議なしと認めます。

よって、議案第32号は原案どおり決定をいたしました。

次に、日程第2 報告第10号「学校医の退任について」を議題といたします。

植田保健体育課長から説明を求めます。

(植田課長)

保健体育課です。

よろしくお願いいたします。

「学校医の退任について」ご報告いたします。
4ページをお願いいたします。

桑原中学校の学校医である新谷泰成氏が8月31日付で退任しましたので、松山市教育委員会事務委任規則第2条第2項の規定に基づき、ご報告するものです。

なお、同校には複数の学校医を配置していますので、今年度中に後任を委嘱する予定はありません。

以上で説明を終わります。

(教育長)

以上で説明は終わりました。

この件に関し、何かご意見等はございませんか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、報告第10号「学校医の退任について」ご異議ございませんか。

(一同)

異議なし

(教育長)

ご異議なしと認めます。

次に、日程第3 報告第11号「松山市青少年育成支援委員の退任及び委嘱について」を議題といたします。

安井教育支援センター事務所長から説明を求めます。

(安井所長)

教育支援センター事務所です。

よろしくお願いいたします。

お手元の資料6ページをお願いいたします。

報告第11号「松山市青少年育成支援委員の退任及び委嘱について」ご説明いたします。

今回、松山市教育支援センター条例施行規則第4条により委嘱しております松山市青少年育成支援委員に関し、教育支援センター事務所職員の人事異動に伴い、転出により9月末で1名が退任し、転入により10月1日付けで1名を新たに委嘱

しましたので、松山市教育委員会事務委任規則第2条第2項に基づき、ご報告申し上げます。

なお、新たに委嘱した職員の任期は、令和5年3月末までとなっております。

説明は以上です。

よろしくお願いいたします。

(教育長)

以上で説明は終わりました。

この件に関し、何か意見等ございませんでしょうか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、報告第11号「松山市青少年育成支援委員の退任及び委嘱について」ご異議ございませんか。

(一同)

異議なし

(教育長)

ご異議なしと認めます。

次に、日程第4 説明事項「令和3年度全国学力学習状況調査松山市立小中学校の調査結果」を議題といたします。

横江事務局次長から説明を求めます。

(横江事務局次長)

学校教育課の横江でございます。

よろしくお願いいたします。

今年度の全国学力学習状況調査の結果についてご説明いたします。

資料の9ページをご覧ください。

本調査の概要ですが、今年度は小学校で国語・算数、中学校で国語・数学が実施されました。

10ページをご覧ください。

教科に関する調査結果は、全国の平均正答率と比較したところ、松山市の平均正答率は、その差が3ポイント以内のため、小学校中学校の2教科ともに全国平均とほぼ同じ状況であります。

11ページをご覧ください。

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査にお

ける本市の状況についてです。

15ページには、考察を示しておりますので、あわせてご覧ください。

学習の状況につきましては、前回調査から引き続き、小中学生ともに総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて、情報を集め整理して、調べたことを発表するまでの学習活動に取り組んでいると回答した割合は、全国を大きく上回っています。

今後も、本市の「笑顔あふれる学校づくり推進事業」の補助金を活用しながら、総合的な学習の時間等における探究的な学習や体験活動等の協働的な学びの充実をより一層進めていきたいと考えております。

一方で、小中学生ともに、国語の授業では、目的に応じて自分の考えを話したり、必要に応じて質問したりしていると回答した割合は、全国を大きく下回っています。

また、小学校の国語の授業では、目的に応じて、自分の考えと、それを支える理由との関係がわかるように書いたり、表現を工夫して書いたりしていると回答した割合が、全国平均をやや下回っています。

各学校が作成しています学力向上推進計画でも、自分の考えを明確にして、的確に表現する力が弱いということを課題に挙げている学校が多く、その解決のため、引き続き松山の授業モデルに基づいた授業実践や、ICT機器を有効活用した指導の改善、充実を図っていきたいと考えています。

14ページをご覧ください。

本市の目標及び指標についてです。

本市の指標として、1日1時間以上の家庭学習の時間を確保している割合を、小学校6年生を76%以上、中学3年生を70%以上としており、小学校は、本市の指標とほぼ同じであり、全国と比較した場合は、大きく上回っています。

中学校は、本市の指標を大きく上回り、全国と比較した割合はやや上回っています。

本市の評価に関する調査結果は、全国平均正答率と比べると、ほぼ同じ状況を維持することができており、要因の1つとして、家庭学習時間の多さが考えられます。

12ページと13ページには、新型コロナウイルス感染症拡大により、臨時休業を行っていた期間に

についての質問が追加され、その結果を示しています。

期間中、勉強に不安を感じたと回答した割合は、小学校が57.1%、中学校が60.7%でした。

コロナ禍における本市の対応としては、学習への不安を抱えて登校してきた児童生徒のため、学力の定着を図るためのプリント教材の提供や、希望する学校への学習アシスタントの従事時数を拡大するなどの学習支援の充実を図りました。

また、学校からの課題でわからないことがあったとき、どのようにしていましたか、との質問で、最も多かった回答が、小学校が学校に聞いたが79.5%、中学校が自分で調べたが65.8%であり、自ら調べる力が、中学生にはついてきていることがわかります。

一方、小中学生ともに、約1割の児童生徒が、わからないことをそのままにした、と回答しているため、各学校における学習アシスタント等の外部人材の活用支援により、児童生徒の個に応じた指導の充実を図るとともに、情報活用能力を高め、自ら調べることができる児童生徒の育成を図りたいと考えています。

なお、これらの結果につきましては、定例会後、松山市のホームページで結果公表を行います。が、学校名を明らかにした結果公表については例年と同様に行わないこととしております。

以上で報告を終わります。

(教育長)

以上で説明は終わりました。

この件に関して何かご意見等ありましたらお願いいたします。

(松坂委員)

ICT機器の活用についてなんですけれども、令和元年度の調査では、月に1回以上利用するという、設問がちょっと違ってたように思うんですけれども、月に1回以上利用していると答えた児童が全国より3.5ポイント低かったように記憶しております。

ところが本年度は、16.4%、それも月1回以上ではなく、ほぼ毎日、週1回以上というのが、16.4ポイント、全国を上回っているということで、私どもが学校訪問をいたしましても、小学校でも中学校でも、大変先生方が努力をしてくださ

っている、学校が組織的に取り組んでくださっているというのを感じています。

教育研修センターの方々のリーダーシップのもと、各学校が取り組んでいただいているのをますます充実させていただきたいのと同時に、児童生徒が直接、子ども同士で対話して深め合っていく授業、こういったことも合わせながら、両者をバランスよく育てていただきたいなと思っております。

(横江事務局次長)

ありがとうございます。

今年1人1台端末が導入されたことによりまして、学校訪問等でその様子を見ていただいているところであります。

これは5月27日に実施した段階でもこのような結果が出ていることを大変うれしく思っている反面、やはりこれから、道具として日常的に使いながら、学習効果をどこで上げていくかということが非常に重要になってくるだろうと思います。

そういった意味では、回数もなおさらでございますけれども、活用しながら授業改善も含めて、1人1台端末を使っていきながら子どもたちの学習効果を上げていくか、ということについてしっかりとまた研究指導を積み重ねていきたいと考えております。

(教育長)

関連してですけど、小学校はプラスですが、中学校が同じ設問に対して結構低いですね。

これはどう分析したらいいか。

(越智所長)

教育研修センターの越智です。

小学校全体の導入がいち早く整ったということも影響するかとも思いますし、また教科担任制である中学校に対して学級担任制である小学校で、いち早く端末活用が始まったということは言えるのではないかと思います。

早い時期での調査でありますので、まだ中学校には十分反映されてはいなかったと考えますが、現在、本センターで調査している内容を見ますと、中学校の活用率はかなり上がってきております。

来年度は、もっと良い数字になるのではないかと

と思っております。

(緒方委員)

国語の教科について、お願いがございます。

本市の調査によると、国語についてちょっと低いポイントが示されております。

「考察と今後の方向性について」のところで、小中学校ともに、国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したり、というところで、授業の中では目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問するという授業の展開がなされるんだろうと思うんですが、タブレットの導入で、ちょっと個人的に気になるのが、ロイロノートというものを使って、友達の記録しているものが、自由に見えるような状態の授業展開を見ます。

そうすると、そこへ行けば友達のノートが見えるということで、お互いに本当に意見を交わす場面というのが、これからどんなふう設定されていくんだろうか、という危惧をしております。

タブレットが導入されたことは大変素晴らしいことですし、いろいろと有効に使っていただきたいと思うんですが、一方で、生の声で生徒同士、教師と生徒、子どもが話を深めるような、そういう授業展開というのも、今後大事にしていきたいなという感想があります。

(横江事務局次長)

学校教育課横江でございます。

先ほどご説明したところに対してのご意見等いただきましてありがとうございます。

GIGA端末でロイロノートが入ってきて、今学校においては、話し合いの一つの手法として使いはじめてきたというところでございます。

委員さんが言われますように、生の声で意見を交わす場面というのは非常に重要な学習だろうと思っている中で、一方では、なかなか発言できない子どもたちが、電子付箋に書いて、送ることができて意見を共有できるというメリットもあつたりします。

やはりこれが今後の授業改善につながっていくだろうと思われませんが、こういったことを踏まえて、教師がどのように授業を組み立てていって、どういう力を子どもにつけていくのかということも重視して授業の組み立てを考えていくこと

が、これから重要だと思っておりますので、またそういうことを含めた指導を、教育委員会の方でもしていこうと考えております。

(一色委員)

11ページの英語が好きですかという回答で、全国平均を大きく上回ってますので、実は英語が小学校でも教科化されまして大丈夫かと心配をしてたんですけども、この結果を見るとですね、先生方も非常に努力をしていただいて、こういう英語が好きだというのがですね、国語や算数が好きという数よりも遥かに上回ってますので、先生方が子どもたちに、教え方で工夫をされているんだろうと思って、非常に感謝しており、高く評価しているのではないかと考えております。

(横江事務局次長)

ありがとうございます。

英語についての説明について小学校が4.7%上回っており、中学校の方も3.5ポイント上回っている状況でございますので、大変我々もうれしく思っております。

そういった中で、やはり本市にALTを今年度38名入れるという目標のところ、コロナ禍で来日が遅れておりますけれども、12月までには38名中36名が松山の方にも来れるということが確定できましたので、ALTとともに、英語でのコミュニケーションを楽しく学ぶというところをしっかりとやっていながら、子どもたちに英語のコミュニケーション能力をつけさせていきたいと考えております。

残り2名につきましても、しっかり要望をかけて、早く来日できるように進めていきたいと考えております。

(教育長)

この間の学校訪問でも教育委員さんからALTに対して高い評価をいただき、松坂委員さんからは、ALTが協議に参加しているのを初めて見たと。

授業内容も、いい授業をやっていたという評価も教育委員さんから得ますので、そのあたりまたしっかりと、対応をお願いしたらと思います。

(白石委員)

1日あたりどれぐらいの時間勉強をしていますかという家庭学習の時間のところなんですけれども、家庭学習の中で何の教科をどれぐらい勉強しているのだろうというところまでは見てないんですけれども、表の中ではですが、私の感覚としてはやはり保護者は何の教科に軸を置くかということ、今は小学校から英語が始まったこともあり、圧倒的に、英語の家庭学習に力を入れている家庭が多いと思います。

その次が、算数や数学、その次が国語なのか何なのかですが、やはりそういうところを加味していただいて、学校の方の取り組みにも反映していただけたらいいんじゃないかなと思います。

(横江事務局次長)

学校教育課でございます。

先ほど申しましたように、一定の家庭学習を行っているということでそれが学力向上に繋がってるんだろうなと予測されるんですけど、内容については把握をしてない中で、特に小学校については、学級担任制でございますので、国語や算数の適切な量の宿題というのはきっと課してるのだと思っております。

そういった中で、今委員さんが言われましたように、新たな、外国語活動が出てきたところがございますので、家庭の方でこういうところに力を入れかけているところもあるように思っておりますけれども、特に小学校で言いますとどちらかということ、やっぱり英語はコミュニケーションをまず大事にしたいということがございますので、このあたりは学校で、何を学ばせていくのかということを考えながら、家庭学習についても、教育委員会の方からもアドバイスできるのであればそういうふうにかえたいと思います。

中学校につきまして、今まで通り、各教科担任が課題を出しておりますので、これまでどおりやっていけたらなというふうに思っております。

(教育長)

その他ございませんか。

(一同)

なし

(教育長)

またしっかり対応方をよろしく願いをいたします。

本日の予定は以上となりますが、その他何かございませんでしょうか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、以上をもちまして、本日の予定の日程はすべて終了をいたしました。

これにて令和3年第7回の定例会を閉会いたします。

ご苦労さまでございました。

(横山事務局次長)

ご起立をお願いします。

一同礼。

(一同)

ありがとうございました。